

～ DPT-IPV の予防接種について ～

(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオの4種混合)

公費負担(無料)です。対象年齢を過ぎると任意接種となり有料となります。
4種混合(DPT-IPV)ワクチンは、ジフテリア・百日せき、ポリオ、破傷風の4つの病気を予防するワクチンです。



●接種対象者と接種回数

接種回数	接種間隔	対象年齢
1期初回 3回	標準的には20日から56日までの間隔をあけて3回接種	生後3か月～7歳6か月未満
1期追加 1回	1期初回終了後、12か月～18か月あけて接種	

●ジフテリア、百日せき、破傷風ってどんな病気？

ジフテリア菌は、せきやくしゃみなどで広がります。感染すると、高熱、のどの痛み、犬が吠えるようなせき、嘔吐などの症状がでます。発病から2～3週間後には心筋障害や神経麻痺を起こすことがあります。感染しても10%程度の人にしか症状は現れず、残りの人は症状がでませんが保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。

百日せき菌は、せきやくしゃみなどで広がります。感染すると、カゼに似た症状が始まり、せきがひどくなります。せきの後に急に息を吸い込むので笛を吹くような音がでます。乳幼児はせきで呼吸ができず、くちびるが青くなったり(チアノーゼ)けいれんが起こることがあります。脳炎や脳症などの重い合併症を起こしたり、乳児では死亡することもあります。

破傷風は、土の中にひそんでいる破傷風菌が傷口から感染します。自分や周りが気づかないような軽い傷が感染の原因になることもあります。感染すると口が開かなくなる、けいれんなどがおきます。日本中どこでも土中に菌はいますので予防接種で免疫をつくっておけば安心です。

ポリオは、「小児まひ」と呼ばれ、人から人へ感染します。ポリオウィルスが人の口の中に入って、腸の中で増えることで感染します。増えたポリオウィルスは、再び便の中に排泄され、この便を介してさらに他の人に感染します。ポリオウィルスに感染しても、ほとんどの場合は、症状が出ず、免疫が得られます。しかし、ウィルスが血液を介して脳・脊髄へ感染し、手足の麻痺を起こし、一部の人には、その麻痺が永久に残ることもあります。

●予防接種による副反応ってあるの？

主な副反応は、接種部位の副反応として、注射部位の紅斑・硬結・膨張など、注射部位以外の副反応として、発熱、気分変化、下痢、鼻水、せき、発しん、食欲減退、咽頭発赤、嘔吐などがあります。極めてまれに、ショック、アナフィラキシー様症状、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれんなどがみられます。

<予防接種による健康被害救済制度について>

- ・ 重篤な副反応が予防接種法に基づく予防接種によって生じた場合は、予防接種法による救済措置(医療費・医療手当・障害児養育年金・障害年金・死亡一時金・葬祭料)を受けることができます。
- ・ 重篤な副反応を防ぐためにも、日頃からお子さんの体質、体調など健康状態によく気を配り、体調のよい時を選んで接種することと、不安や問題点があったら医師とよく相談することが大切です。

～ 予防接種を受ける際は、親子(母子)健康手帳で確認してから接種しましょう! ～

(すでに接種されている方は受ける必要はありません)

☆他市町村で接種を受けた方は、本部町役場健康づくり推進課までご連絡ください。



【お問い合わせ先】本部町役場健康づくり推進課 予防接種担当 47-5602